

## 【第49期初級陸曹特技課程「准看護師」卒業式】

令和8年3月5日（木）、自衛隊札幌病院准看護学院（学院長 本間1佐）は、北部方面総監部医務官、北部方面衛生隊長等のご臨席を賜り、第49期初級陸曹特技課程「准看護師」の卒業式を挙行し、卒業する第49期生25名は、准看護師として必要な知識と技術を身に付け、新たな一步を踏み出した。

式では、学院長が一人ひとりに卒業証書を授与し、続く式辞において、これまでの努力を称えるとともに、「信頼される衛生救護陸曹になれるよう日々前進してほしい。」と期待を込めた言葉を贈った。

続いて、病院長（菊池陸将）より訓示があり、この中で「自主的に学べ」及び「新たな風を吹き込め」の二点の要望があり、一点目の「自主的に学べ」については、「衛生科隊員としての役割について理解を深め、与えられる知識を詰め込むだけではなく、目的意識を持って貪欲に知識・技能を習得することが大切である。我々は、仲間の命に係わる任務に従事しているという自覚と危機感をもって、今後もあらゆる機会を捉え自主的に学んでもらいたい」とし、二点目の「新たな風を吹き込め」については、「自衛隊衛生は今、様々な分野で注目されている。新たな任務等に従事する時、組織は使命感とともに活性化されるが長期化するとマンネリ化する。また、順調に従事している時こそ惰性に陥りやすい。これから新天地へ旅立つが、それぞれの場所で最初に感じる違和感は、とても重要である。現状で良いのか常に問題意識をもち、組織に新たな風を吹き込める存在になってもらいたい」と今後の職務遂行に係る心構えを諭した。

ご来賓を代表して北部方面総監部医務官（佐藤1佐）は、新天地でのさらなる活躍を祈念するとともに、「迷うことがあれば任務分析を繰り返し実施し、任務・地位・役割を明確にして立ち止まらないこと。また、若さを活かし部隊の原動力となる新風を巻き起こしてほしい。」と祝辞を述べられた。

また、病院長は式終了後に「組織において与えられた任務は、必ず完遂させること、組織の中で上下だけを見ることなく左右にも目を配り、お互いにフォローし合うように、そして仲間を大切にするように」と激励の言葉を贈った。

卒業生たちは、2年間で学び培った知識と技術、そして仲間を助ける気概を胸に、それぞれの新任地で衛生救護陸曹として誇りを持ち、職務に邁進していく。



病院長訓示（菊池陸将）



学院長式辞（本間 1 佐）



卒業証書授与



病院長褒賞



拝聴する学生



見送り①



見送り②



見送り③



卒業生 (第49期生)